


グループホーム「仲間館・絆」

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「心こそ大切なれ、地域の一員として助けられたり、助けたり の輪を広めよう」という理念のもと、日々取り組んでいる。	○ 利用者が地域の一員として自分らしく暮らしていけるように何が出来るのか、日々考えながら取り組んでいきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有し、職員が常に意識して動けるよう、心がけ取り組んでいる。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族、来訪者等に見て頂く様、分かりやすく掲示している。運営推進会議などでも理念が浸透するように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄って頂ける様に、(お茶でもいかがですか？お気軽にお立ちより下さい)を立て、呼びかけている。立ち寄って頂いた時には、日常的に遊びに来ていただける様な声掛け等を行い楽しく過して頂けるよう心掛けている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、行事等には出来る限り積極的に参加し、地域のお祭りや、保育園のお祭り等に参加させて頂く様勤めている。	○ 地域の草取りなどには参加しているが、もっと地域の一員として何か出来る事はないのか？地域の方との話の中で出来る事を見つけていきたい。

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の代表の意見を聞かせて頂きながら「何か出来る事はないのか？」を考え取り組んでいる。	0	理念やグループホームの存在が地域に浸透していく様取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価資料を全職員に配布し、皆で討議し取り組んでいるが意義を理解出来てない職員もいる。	0	全職員が意義を理解し、評価を活かして生けるよう取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や状況を報告し、委員の方からの助言や意見、要望などを取り入れ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談がある時には、市役所の担当職員に相談している。又、グループホーム会にも市の職員がいらっしゃるのでもわからない事があれば、質問などをしサービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や一部職員は理解しているが全職員が理解しているわけではない。	0	全職員が理解しご家族に説明を行えるよう取り組んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加してミーティングの際に研修報告などを行い職員の理解などを深めている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	なるべく職員2人で対応し、説明の漏れがないように努めている。利用者やご家族の質問にもわかりやすい様にも説明し、理解して頂けるよう心がけている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者が一番話しやすい職員に意見、不満など言われる事が多いので、管理者報告後、職員で話し合い意見交換をし改善するように心掛けている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	暮らしぶりや、日常の生活の様子を知ってもらう為月間利用状況報告を1ヵ月分にまとめ郵送している。面会時に写真を見て頂いたり、普段の状態や経過を伝えるように心掛けている。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	苦情箱を設置している。ご家族からは管理者やスタッフへ直接相談がある事が多い。意見を取り入れ運営に反映させている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月一回の職員ミーティングにて意見や提案を話し合うようにしている。その話し合いの中で利用者の状態、一日の流れの時間の変更や利用者の要望、職員の要望により外出や外食等を行っている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者や家族の状況の変化などに対応し、病院受診など、一番把握している職員を配置したり、柔軟な対応が出来るように職員で話し合い勤務調整につとめる。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員と馴染みの関係が保たれるよう異動などは極力少なくし、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集、採用にあたっては、年齢や性別を問わないようにしている。個別に悩みや相談に応じて動きやすい職場作りに取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>定期的な職員会議の中で利用者の人権について話し合い、ケアの方針、統一に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修等について職員へ積極的に呼びかけ、研修を受ける機会を確保している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業者協議部会に参加しているが法人外との交流はあまりない。</p>	0	<p>研修会や交流会などの機会にネットワーク作りや、相互訪問等を働きかけサービスの質を高める取り組みが望まれる。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>入居者に適切なケアをしていくために、職員がストレスをためないように、個別に悩みや相談に応じコミュニケーションをよく取るようにしている。外部の研修も受けている。</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自主勉強をし、月末までにレポート提出をすれば学習手当てがつくようにしている。個々の努力や実績に応じて、面接をし昇給制度にしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴し、なるべく多く本人の声を聞くように、聞けるように心配りしている。意志の疎通が出来ない方でも、不安な事、求めている事、心の声を聞き表現等で読み取り、信頼関係が築けるように心掛けている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、不安な事、求めている事をよく聴き共感し「その方にとって何が一番いいのか。」と一緒に考え、信頼関係を築けるように心掛けている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	小さな事でも聞き逃さず、「その人にとって、今何が必要なのか。」を第一に考え、その方にとって一番良い方法を、本人、家族と共に考え対応できるように取り組んでいる。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者家族との面談や聞き取りを密にし、一日体験利用などをして頂きながら、場の雰囲気次第に馴染んで頂けるよう取り組んでいる。面会に行き、なるべくコミュニケーションを取るよう取り組んでいる。		
い				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員がわからない事(梅干の付け方、漬物の漬け方)など教えて頂き、助けられたり、助けたりの関係を大切にしている。一緒に楽しみながら喜怒哀楽を共有し、支えあう関係を築けるよう取り組んでいる。		

グループホーム「仲間館・絆」

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人主体の介護が出来るよう、ご家族の方と一緒に考えている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今迄の本人とご家族の関係、情報をお尋ねし共により良い関係が続けていけるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が連絡して欲しいと言われた友人の方に連絡したり、元、住んでおられた場所に連れていったりしている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクや戸外活動を取り入れたり、日常生活に於いて洗濯物たため、食器拭き等やって頂き、関わって頂くよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院されたり他の施設に入居されてもお見舞いに行ったり、又、ご家族も訪問して下さっている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉、表情、顔色、動作等から一人ひとりの思いや、暮らし方の希望意向の把握に努めている。意志の疎通が困難な利用者に対しては、表情や会話、ご家族の話の中から少しでも多くの情報収集をし、本人の意思に添うようにしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過等を職員全員で共有し把握し、日常の支援に活かしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ホームに於いて利用者の今迄の生活ペースを守ると共に残存能力を活かして頂ける様に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者担当者を決めて本人とご家族の意向を重視し、専門職の意見を取り入れプランを作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリングを行っている。又、本人に変化が生じた場合、本人、ご家族、専門職と共に話し合いプランを作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活に於いて食器拭き、洗濯物たたみ等、残存能力を見出し活かして頂くよう支援し、表情等も記録するようにしている。又、その実践をプランに活かすようにしている。が、一部の職員が記録の大切さを理解していない。	0	全職員が記録の大切さがわかるように取り組んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院が必要になられた利用者に対してご家族の都合がつかない場合等、通院の手伝いを行っている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	今の所、必要性が発生していなかったが、必要性が発生した場合、協力させて頂き支援を行います。	0	必要に応じて協力して頂き支援を行います。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今迄、必要性がなかったが、必要性が発生した場合、話合っていきます。	0	必要に応じて話し合いをさせていただきます。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、必要性が発生していなかったが、必要性が発生した場合、協働させて頂き支援を行います。	0	必要に応じて協働させていただきます。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との交流を持ち指示や助言を頂き、情報交換など行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日々常に、利用者の体の変化を把握している看護師と常に相談しながら日常の健康管理に努めている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した時は、なるべく多く病院に出向き早期退院のための話し合いをし情報交換など行っている。ご家族とも密に連絡を取り情報交換を行っている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人、家族、医療機関と密に連絡をとりながら支援の共有化を図っている。その都度、家族と連絡を取り同意を得ている。</p>	0	<p>関係者全員が、理解情報を共有できるように取り組んでいきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者が日々より良く暮らせるために、ご家族とも話し合い、本人がどう過ごしたいか、本人本位での支援を職員と一体になり話し合っている。状態の変化については、家族と密に連絡を取りながら取り組んでいる。</p>	0	<p>関係者全員が、理解情報を共有できるように取り組んでいきたい。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>出来る限り馴染みの使い慣れた家具などを持ってきて頂き、なるべく、元のその方の部屋に近くなるように、家族と話し合い、住み替えによるダメージを防ぐようにしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人格を傷つけないよう、声掛けに注意を払っている。又、個人情報に於いてもプライバシー等、守秘義務を守っている。</p>		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	難聴の方や性格的に内気な方等に対しても筆談を行ったり心を開いて頂くような声掛けにて、働きかけている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方の今迄の生活を大切に無理強いする事なく、意向を取り入れ支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣料店に於いて馴染みの店に連れて行き利用者の好みを取り入れて選んでいただいている。理容店においても希望に合わせた店へ行き本人好みのヘアスタイルをして頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	どのような食事がしたいか？どんなあじ付けが好き？などと尋ね味付けをし、出来るだけ食事の下準備も手伝って頂いている。食器を拭いたり盛り付けなども出来る事は一緒にして頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来るだけ一人ひとりの好みを取り入れるよう努めています。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の失敗が多い方は、時間毎のトイレ誘導などを行い一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を把握し、気持ちよく排泄できるよう支援している。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1F2Fユニットの浴室があり、同時にお湯を出すとは最後はお湯が出なくなってしまう為、1F週3回、2F週3回入浴予定を組んでいる。デイサービスに行かれてた方が多い為夕方からの入浴は好まれない方が多い。午前中からの入浴が殆んどである。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は生活レクリエーションを中心としたレクを行ったりして夜間は安眠して頂くようにしている。又、昼食後にベッドに横になって頂いたりソファで休憩できる時間を作っている。		
あだく				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が昔された仕事、得意な事を生かしてグループホーム内で出来る仕事を生活リハビリとしてその方に合った役割を持って頂き、日常的に支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、サイフを自分で持ち金銭管理をされている方もいれば、全く出来ない方もいるのでレジの前でお金を渡しなるべく自分で払ってもらえるようにしている。お金の大切さ、安心感を持って頂くように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日によって散歩に出たり、外食洋服の買い物など本人の要望を聞いてなるべく外出する機会を大切にしよう支援している。時々外食(バイキング)に行き好きな物を自分で選んで食べて頂けるように支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に1度の旅行に行ったり個別にお墓参りなど連れて行ったり、職員、利用者、家族と一緒に外食するなど楽しい外出ができる様に支援している。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族へ電話したいとの申し出があった際、自分で出来る利用者はなるべく自分でして頂くように支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問して頂けるよう行っている。また、長居されても良いようにラウンジを設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス時に於いて職員全員が身体拘束の行為を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はない。職員の理解があり鍵をかけないケアを実践している。が、工夫として、職員の見守りや利用者の外出傾向を把握し対応している。また、安全の為に入り口にチャイムを設置している。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	徘徊の行動があられる利用者の方に対して職員間での所在確認を行いながら又、利用者のサインを共有している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	収集癖や早食行動があられる利用者の方に対して一人ひとりの状態に応じ、職員間にて把握し、危険の防止に取り組んでいる。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	カンファレンスにて事故防止を重視して取り組んでいる。 (例)服薬の際2人で、勘違いが起きない様に確かめ合うようにしている。	0	飲ませ忘れがあった事あったため服薬の確認の強化を行う。

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一通りマニュアルは揃えている。看護師による指導は行っているが全職員が出来てくわけではない。利用者の急変や事故発生時には、すぐ施設長、管理者に連絡を取り指示を仰ぐようにしている。	0	全ての職員が応急あい手当等を行えるよう勉強会をして行きたい。消防署で行われている救命講習会にも受講して行きたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器と避難経路の点検を年に一回行っている。防火訓練を実施する際は、地域へ協力、参加を働きかけているが、難しい状況である。消防署の職員立会いの元避難訓練など行っている。	0	緊急時の協力が得られるように地域住民の方の参加を呼び掛けて行きたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクを家族に説明し、理解して頂き、数名に同意書などを頂いている。利用者がのびのびとした暮らしができるように支援している。	0	これから先、リスクが出てこられる方もあると思うので変わらず取り組んで行きたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	目配り、心配りを大切に体調の変化、様子の変化を見逃さないようにしている。発見した際には、病院受診、様子観察などを行い、早急な対応を心がけている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が指導を行っている。薬が少しでも変わると、報告があり、全職員にいき渡るように申し送り簿にキチンとかいてある。	0	理解出来てない職員もあり、全職員が理解出来るよう安全に服薬管理ができる様努めて行きたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防の為食物繊維を多く取って頂いたり腹部マッサージを行っている。又、運動の為に毎日の体操、行進などを行っている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き誘導、入れ歯磨き介助、うがいなど、一人ひとりの能力に応じて自分で出来る方はなるべく自分で頂くようにしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量等のチェックを行い、利用者の状態に応じ、摂取量が確保されているか記録している。が、水分摂取量のチェックがもれている。	0	水分摂取量のチェックを確実に行うようにする。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してのハンドブックを作成し消毒、予防に気をつけている。玄関には、マスクと消毒を置き、来客者には必ず消毒をして頂くようにしている。利用者は食事前には、必ず手洗い消毒をしていただいている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を提供できるよう行っている。調理器具等は消毒を行うように心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	自由に出入りして頂けるよう「お茶をどうぞ」とボードに書き込んでいる。又、車も止めやすいように駐車スペースを確保している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに於いても季節感を採り入れている(壁の掲示など)生活感も味わって頂けるようなテーブル、テレビ、ソファの配置をしている。リビングには、季節、日にちがわかるようにその月の大きな見やすいカレンダーを貼っている。		

グループホーム「仲間館・絆」

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のソファや、リビングのソファ、テラスのソファ等、利用者の方が横になられたり語り合えるような配置をしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、出来る限り今まで使い慣れた家具、物等を持ってきて頂くようにしている。また、ご家族の写真を持ってきてもらったり、撮らせて頂いたりして、安心して居心地良く過ごして頂けるように工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に空気の入れ替えの為、窓を開けたりし、又、利用者の居室一室一室に換気扇を設置している。温度調節にも気を配っている。		
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を図る為、入居者一人ひとりの日常生活の中で「出来る事、出来そうなこと」について把握し、極力、手や口を出さずに見守ったり、時には一緒に行くよう支援している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりを把握しわかる力を活かして出来る事はなるべく自分でやって頂けるよう、上手な声掛け、さりげなく誘導を行っている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスを利用して、洗濯物を干したり、日向ぼっこをしたりできる場を作っている。畑に苗を植えたり、収穫したり、楽しめる場を作り活動に活かしている。		

グループホーム「仲間館・絆」

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	0	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	0	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	0	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム「仲間館・絆」

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		0	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		0	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	0	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	0	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		0	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・年に1度の旅行を計画している。(毎年)去年は、沖縄2泊3日、今年は、鹿児島、宮崎に2泊3日だった。全介助が必要な方も温泉に入られ感動された。
- ・健康な方が普通に暮らすように許す限り、自由に生き生きとした、その人らしい生活が送れるように支援しています。